

鉄道橋梁の洗掘被害を未然に防止し、交通機能を確保

5か年加速化対策

国土強靱化

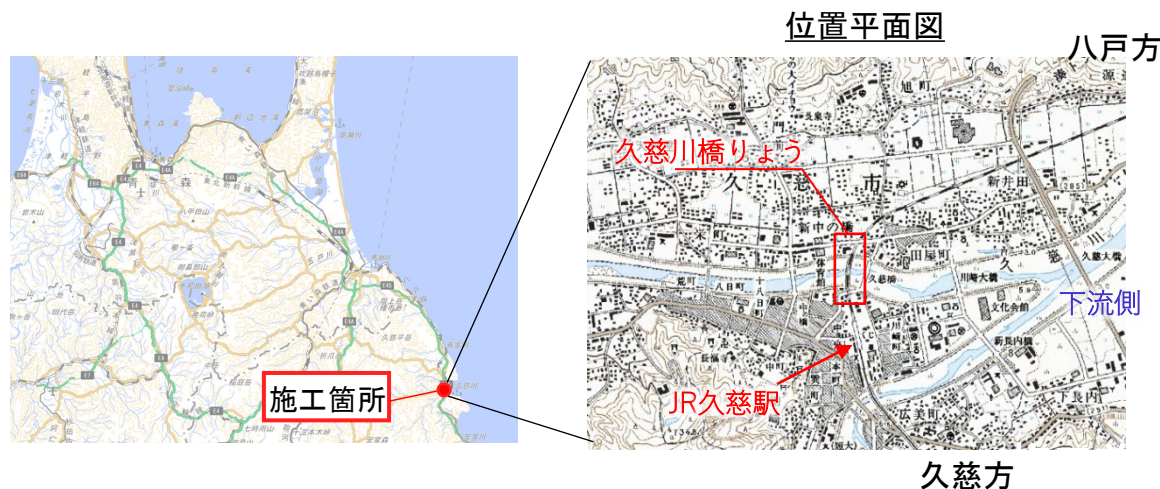
NATIONAL RESILIENCE

災害時の効果発揮事例

概要 要：河川増水時の橋脚被害による橋梁流出等を防止するための河床低下防止対策を実施。令和6年8月の台風5号では、降雨により鉄道の運転を取りやめるほどの河川増水が発生したが、対策工事を実施していたことにより橋梁流出を防止し交通機能を確保した。

府省庁名：58-1 豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策＜5か年加速化対策＞【国土交通省】

- 実施主体：東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社
- 実施場所：岩手県久慈市
- 事業概要：河川増水時の鉄道橋梁の洗掘被害を未然に防止し、交通機能を確保するため、八戸線の久慈川橋梁における河床低下防止対策（根固工新設）を実施
- 事業費：約0.8億円（令和3～4年度）
（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）約0.8億円）
- 災害の外力、被害と効果



令和6年8月11日～12日の48時間降水量は285mm（気象庁山形（岩手県）観測所）と過去最大を記録。

⇒ 対策工事の実施により、洗掘被害は無く、地域の重要な交通手段である八戸線の交通機能が確保できた。

5か年加速化対策における全国の既往最大規模の降雨により流失・傾斜の恐れがある鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策の完了率（%）

R2年度	R3年度	R4年度	R7年度 （目標）
33	40	66	85

